

平成27年度 事業計画書

1. 競技普及に関する事業

(1) 連盟の使命

当連盟の目的は橈競技を通じてスポーツを振興し、国民の体力と競技力の向上及びスポーツ精神の普及を図ることとなっています。今後、公益社団化を踏まえ、本当に多くの人にその恩恵を与えているか、広く認識してもらえているかを再確認し、事業を展開しなければ、競技の普及どころか、この連盟の存在意義もなくなってしまうかもしれません。長野市ボブスレー・リュージュパーク（通称スパイラル）の活用についてもピョンチャン、東京オリンピックを見据え、また札幌の招致に関しても連盟として、かかわっていかなければなりません。

(2) 次なる組織編制

26年度はピョンチャンオリンピックに向けて、まず一步を踏み出す組織を作り始めました。競技によっては引退を伴い、全く新たな選手の強化が始まったものから、引き続き世界に挑み続けるものまで、参加するだけのオリンピックでなくそれぞれの目的を達成すべき、強化体制を模索しました。その結果海外コーチを初めて招聘し新たな可能性を探り、競技強化を図りましたが、27年度は次なるステップとしてより充実した、また現実的な手段として組織を編成します。昨年からはじめた指導者養成についてもより多くの参加を促し、また人材開発も要望が多くトライアウトを開催する予定です。いずれにしても競技者の増加が進まず、それを強化する指導者が不足しては今後、橈競技が発展していく要素がありません。広報、ファンドレージングを通じて広く多くの人に訴えていかなければなりません。

また加盟団体との連携についても普及、振興という意味では比重が大きく、財政面でも日本連盟が担う内容が大きくなると思います。学生連盟のあり方、正会員の人数についても議論、検討が必要と考えます。

これからの連盟の方向、また競技の未来にとって重要なシーズンになることは間違いないと思われま

(3) 資金調達拡大

今期は免税寄付がなくなり、財源確保は厳しいものがありましたが、何とか前年度並みの金額を確保できました。ただ正会員の減少、加盟団体の増加が見込まれない現段階は外部からの資金調達を念頭におけなければなりません。また次年度より、日本スポーツ振興センターと日本オリンピック委員会の事業助成金の仕組みが変わり、より厳密な申請、詳細な報告が求められ、自主財源の事業の実施も強調されています。

公益法人化を進めてまいります。それに伴う寄附金免税のメリットを生かし、より高額な援助とより多くの人から応援いただける仕組みづくりを心がけ、サイト寄附等をメディアの力を借りて確立していきたいと考えています。目標金額は今までにない金額を設定しました。

募集寄付金額 金23,000,000円以上

2. 競技力向上事業

2018年平昌五輪でメダル・入賞の可能性を持った選手の強化を重点的に推し進めることと、2022年冬季五輪に向けた指導者養成と才能のある若手選手の発掘・育成に全力を挙げます。また、JSC（日本スポーツ振興センター）の「女性競技種目戦略的強化プログラム」を競技委員会と連携して新たな国際競技力向上につながる女性競技種目（スケルトン）の強化・育成モデルプログラムの開発に継続的に取り組みます。

- (1) ナショナル・Jr ナショナルチームの選抜と強化
- (2) 海外遠征と国際試合参加
- (3) 指導者育成と強化（日体協公認指導者のライセンス制の拡充）
- (4) 有望選手（タレント）の発掘・育成・強化
- (5) マテリアル開発の推進
- (6) 医・科学サポート事業の推進（ドーピング、NTCの有効活動等）
- (7) 海外優秀コーチの育成・強化プログラムの導入
- (8) 女性競技種目戦略的強化プログラム開発への連携

3. 本年度公認国内計画（予定）＊会場はすべてスパイラル

1 国際大会開催

- 27.12.25～27 リュージュアジアカップ大会（25、26AM 公式練習、27AM 競技）
（27.12.21～25 リュージュアジアキャンプ（一般滑走と並行実施））

2 国内大会開催

ア ボブスレー競技

- 27.9.20 全日本プッシュボブスレー選手権大会
27.12.18～20 全日本ボブスレー選手権大会（18TCM 19 公式練習 20 競技）
28.1.23～24 JOC ジュニアオリンピックカップ競技会（23 公式練習 24 競技）
28.1.23～24 JBLSF チャレンジカップ大会（ " " ）

イ リュージュ競技

- 27.12.24～26 全日本リュージュ選手権大会（24 TCM 25AM 公式練習 26AM 競技）
27.12.24～26 JOC ジュニアオリンピックカップ（ " " ）
28.1.23～24 JBLSF チャレンジカップ大会（23 公式練習 24 競技）

ウ スケルトン競技

- 27.9.20 全日本プッシュスケルトン選手権大会
27.12.11～12 全日本スケルトン選手権大会 予選会（11TCM 12 予選会）
（通常の練習滑走を活用。13日は予備日）
27.12.25～27 全日本スケルトン選手権大会（24 TCM 25PM 公式練習 26PM 競技）
28.1.23～24 JOC ジュニアオリンピックカップ競技会（23 公式練習 24 競技）
28.1.23～24 JBLSF チャレンジカップ大会（23 公式練習 24 競技）

＊国際大会の日程及び日本選手の参加状況により、日程変更する場合があります。

*リージュのアジアカップ大会は、全日本選手権大会を兼ねた大会（ただし、日本選手のみ表彰対象）とします。

*学生連盟が主催している全日本インターカレッジ大会の本連盟公認化は引き続き検討事項とします。

4. 審判資格取得研修会、養成講習会

多くの加盟団体から各種大会の競技役員をはじめとした人的協力が仰げるよう、標記研修会等の講師派遣経費を本連盟負担により行います。

なお、今後の国内大会は、「できるだけ3競技大会同時開催」を優先的な考え方とするため、大会運営の効率化に向けて「ボブスレー・スケルトン審判員」と「リージュ審判員」の両資格取得を働きかけてまいります。

5. 各関連会議

(1) 国際会議

2015. 5.30-6.1 FIBT ワールド कांग्रेस ギュント ベルギー

2015. 6.19-21 FIL ワールド कांग्रेस ピョンチャン 韓国

(2) 国内各種会議

日本オリンピック委員会（評議員会・総務委員会・選手強化本部委員会ほか）

日本体育協会（評議員会）、日本スポーツ振興センター（振興基金・振興くじ）、

ナショナルトレーニングセンター（運営委員会）、国立スポーツ科学センター、

アンチ・ドーピング機構、等出席

6. 委員会事業

(1) 総務委員会

- ・連盟全体の事業、予算、決算の遂行
- ・競技者、スタッフ、審判の登録承認活動
- ・国内外関係団体との連絡調整
- ・法制環境の整備と公益団体への移行
- ・ファンドレイジングに伴う広報活動

(2) 競技委員会

<競技強化部>

(1) ボブスレー活動計画

- ・海外優秀コーチによる強化戦略プランの策定と実践
- ・トライアウト実施による有望な新人選手の発掘と強化
- ・パイロットの育成プログラムに準じた滑走トレーニングと国内外の滑走合宿
- ・2018年平昌五輪に向けて入賞可能な資質に優れた選手・チームの海外派遣
- ・下町ボブスレーとのソリ共同開発
- ・海外優秀コーチによる指導者育成プログラムとの連動

- ・ 2016年ユース五輪へ向けたユース世代の育成・強化

(2) リュージュ活動計画

- ・ イタリアチームとのパートナーシップの確立・実践
- ・ パートナーシップによるマテリアルなどの情報の共有によるチームレベルの底上げ
- ・ トライアウト実施による有望な新人選手の発掘と強化
- ・ Jr 育成プログラムに準じた滑走トレーニングと国内滑走合宿の充実
- ・ Jr 世代の継続的な育成・強化

(3) スケルトン活動計画

- ・ 2018年平昌五輪に向けてメダル可能な選手の見極めと重点強化
- ・ トライアウト実施による有望な新人選手の発掘と強化
- ・ Jr 育成プログラムに準じた国内外での滑走トレーニングの強化
- ・ 海外優秀コーチによる指導者・選手育成プログラムとの連動
- ・ 2016年ユース五輪選手の輩出
- ・ 女性競技種目戦略的強化プログラム開発への連携

<人材開発部>

日本連盟主催トライアウトを実施し、内容については6月か7月のどこかで、関東地区、関西地区の2ヶ所において実施を予定したいと考えています。場所、内容、告知、その他は、競技委員会にて相談の上決める予定です。また従来各都道府県連盟において実施しているコントロールテスト、またはトライアウトへの協力をし、アンケートにより、各都道府県連盟の実施状況とその内容、そして今後の実施予定を確認します。そして選手リクルーティングについては各競技団体、企業、学校、競技会に出向き、各強化部会と連携し、競技部会が求める選手の発掘をします。

<指導者養成部>

本連盟の指導者養成システムを、日本体育協会公認コーチ、上級コーチ養成講座と連携して実施し、資格あるスタッフを確保する事を目的として活動します。

本連盟に所属し希望する者は、公認コーチ、上級コーチの対象者として日本体育協会へ推薦し、養成講座の共通科目受講の手続きを進める。また公認コーチ、上級コーチにおける養成講座の専門科目を担当することとします。

<医・科学部>

ドーピング予防活動、NTCの有効活用さらに各競技部と連携して医・科学サポート事業を推進します。

(3) 大会・審判委員会

<大会運営部>

大会運営部の主たる業務は、上記3.に記載されている大会の円滑な運営です。

大会運営における課題については、引き続き各加盟団体等の協力を得て可能な限り課題解決をしながら、円滑な大会運営を進めてまいります。

また、施設開設から19年目を迎えていることで、大会運営に関する最近のニーズに対応することが困難なことも生じてきていますので、長中期的視野における改善（施設修繕、仮設工作物の設置、競技備品の充実等）も視野に入れた対応に心がけてまいります。

<審判部>

大会運営に必要な不可欠な競技役員をより多く確保し、スキル向上を図るため、上記4.の研修会、講習会において規則等の講習・試験を行うほか、国内大会に出場する選手等の資質の向上を図るため、大会参加に関する基礎的事項を記載したベーシックガイドの周知・普及を図ります。

また、国際審判員資格・マテリアル検査官資格の取得希望があり、審判員や検査官として適切な者がいた場合には、積極的に国際連盟への受験推薦を進めてまいります。

(4) コンプライアンス・倫理委員会

年2回半期に一度の開催予定ですが、事例発生時に臨機応変対応いたします。本年度よりモニタリングおよび、啓蒙活動にも力をいれ、全日本選手権開催時に選手、役員含め連盟全体でセミナー、意見交換の場を設けたいと考えております。